

## 令和6年度 学校関係者評価報告書

宮崎県立明星視覚支援学校

### 【教育目標】

一人一人の障がいの程度と発達段階に応じた教育を行い、障がいによる様々な困難を克服するために必要な知識、技能、態度を養い、心豊かに明るく、社会で自立し、たくましく生き抜くことができる幼児児童生徒を育成する。

### 【学校経営ビジョン】

幼児児童生徒の自立と社会参加に向けて、何事にも前向きに捉え失敗を恐れずに挑戦し、自ら考え、社会でたくましく生き抜く力の育成を目指し、きめ細やかな教育活動を実践し、保護者や地域から信頼される開かれた学校づくりを進める。

～自分の手で触り、自分の耳で聴き、自分の心で感じ、自分の頭で考える～

### 【社会の一員として、人と関わりながらたくましく生きていくために育成したい力】

- ①思考力 ②主体性 ③コミュニケーション力 ④体力 ⑤感謝する心

### 【評価基準】

4：期待以上である 3：ほぼ期待どおりである 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

重点目標及び努力事項	学校職員 (平均値)	保護者 (平均値)	学校評議員 (平均値)	学校評議員の意見	
目標1 幼・小・中・高・寄宿舎までの一貫した教育の推進				<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後のことを考えながら、幼児から高等部生にかけて丁寧にキャリア教育なども取り入れており、先生方の熱意に感銘を受けた。</li> <li>・寄宿舎での生活は生徒にとってとても大切な経験になっている。小学部から理療科生まで幅広い年齢が生活しているため、難しさもあるであろう。</li> <li>・ICT活用の研究公開で実際に授業を参観し、様々な取組がなされていると感じた。知らない機器もたくさんあり知っている機器をもうまく使っている部分もあり、ICT活用の幅とその重要性を改めて感じた。</li> <li>・目標設定に対して、期待以上の成果を上げられていると感じた。目標に向けて確実に実行しておられ、それが一人一人の成長に表れているよう思う。</li> <li>・各学部で工夫そして細やかに丁寧に取り組んでいる。一人ひとりに対応したきめ細かな取組が実践されている。</li> <li>・学校の取組など多くを知ることができた。視覚障がいの生徒のための学校であり、大変専門性の高い高度な教育を実践している。</li> <li>・将来の夢の実現も、選択肢が広がりつつあることを知り、さらに様々な門戸が開くことを願っている</li> <li>・普通科生の就労に関して就労支援員として個人的には気になった。ど</li> </ul>	
ア 幼・小・中・高・寄宿舎一貫した発達段階に応じたキャリア教育を推進する。	2.7	3.0			
イ 一人一人の実態に応じた根拠に基づく幼・小・中・高一貫した教育課程の充実を図る。	2.8	2.9	3.5		
目標2 視覚障がい教育としての専門性・専門的指導力の向上				<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で工夫そして細やかに丁寧に取り組んでいる。一人ひとりに対応したきめ細かな取組が実践されている。</li> <li>・学校の取組など多くを知ることができた。視覚障がいの生徒のための学校であり、大変専門性の高い高度な教育を実践している。</li> <li>・将来の夢の実現も、選択肢が広がりつつあることを知り、さらに様々な門戸が開くことを願っている</li> <li>・普通科生の就労に関して就労支援員として個人的には気になった。ど</li> </ul>	
ア 視覚障がい教育の専門性及び授業力の充実を図る。	3.0	3.2	3.8		
イ 授業力向上に努め、学力向上を目指す。	2.9	3.2			
ウ 組織的な研修・研究の充実を図る。	3.2	3.1	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で工夫そして細やかに丁寧に取り組んでいる。一人ひとりに対応したきめ細かな取組が実践されている。</li> <li>・学校の取組など多くを知ることができた。視覚障がいの生徒のための学校であり、大変専門性の高い高度な教育を実践している。</li> <li>・将来の夢の実現も、選択肢が広がりつつあることを知り、さらに様々な門戸が開くことを願っている</li> <li>・普通科生の就労に関して就労支援員として個人的には気になった。ど</li> </ul>	
目標3 進路指導の充実					
ア 一人一人の進路実現に向けた積極的な進路指導を展開する。	2.7	2.8	3.3		
イ 職場体験学習、現場実習及び施設等見学の充実を図る。	2.9	3.3			
ウ あはき師国家試験の合格に向けて積極的に支援する。	3.0	3.1			
エ 県と連携してヘルスキー等の進路開拓を推進する。	2.8	3.2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科生の就労に関して就労支援員として個人的には気になった。ど</li> </ul>	

オ 卒業生のフォローアップに努める。	2. 8	3. 0		ういう就職先を目指しており、現在どのような悩みがあるか等、相談に乗れることはぜひ教えていただきたい。 ・卒業生の就労先が広がっていると感じた。視覚障がいの方が、この機器を使えばどういう働き方ができる等の自己発信で働き方の幅が変わってくると感じている。やはり ICT 機器をうまく活用することが仕事の幅を広げるのに有効だと感じた。
<b>目標4 安心・安全な学校生活の保障</b>				
ア 様々な危機に対応できる危機管理体制の充実を図る。	2. 9	2. 9		
イ 計画的な防災・避難訓練、防災教育を強化する。	3. 0	3. 2	3. 8	・外部との交流や ITC の活用などで、コミュニケーション能力が培われてきていると思った。
ウ 教育活動全般における安全な教育環境に係る安全点検を徹底し、改善に努める。	3. 0	3. 2		・地域社会との連携において連携先の大きな協力を得られていることは、取組の方向や方法が的確であることを示している。 ・各学部とも他の学校との交流や地域での交流、職場体験など多様な工夫をしながら学習効果をあげている。交流の様子から、生徒が学級に溶け込んでおり、交流が日常化していると感じた。幼児児童生徒数が少ないことから交流の機会は重要と感じる。
<b>目標5 地域社会とつながる学校の推進</b>				
ア 医療・福祉・教育・労働等の関係機関と連携した教育活動を推進する。	2. 9	3. 0		
イ 交流及び共同学習の充実を図る。	3. 1	3. 3	3. 8	・会議時間の短縮などの取り組みが素晴らしいと思った。
ウ 宮崎県内の視覚障がい教育におけるセンター的機能を強化する。 ・通級指導教室による支援を充実する。 ・理解系春及び情報発信を積極的に行う。	3. 2	2. 8		・幼児児童生徒数が少ないと保護者の数も少なくなるため、PTA 活動では、厳しい面もあると推察する。 ・多様な取り組みを着実に実践されていると思うので県教育委員会はぜひ必要かつ十分な予算をつけていただきたい。
<b>目標6 教職員の働き方の改善</b>				
ア 各会議のスリム化と効率的な運営方法の工夫に努める。	2. 7			
イ 職員間のサポート体制を構築(学部を超えた指導など)する。	2. 9		3. 8	
ウ 「学び続ける教師」として校内外での研修を推進する。	2. 9			